



# みさかえの園だより

第27号 2021年 1月

発行所

社会福祉法人 聖家族会

発行責任者 西村和子

編集 広報委員会

☎859-0167長崎県諫早市

小長井町遠竹2727-3

☎0957-34-4520

FAX 0957-34-4521

〔年2回発行〕

## 未来志向の社会福祉法人で

## あるために

社会福祉法人

聖家族会

理事長

西村 和子

二〇二一年の新年おめでとうございます。

昨年は新型コロナウイルス感染症のために日々の生活スタイルまで変わってしまったような年でした。

なおウイルスとの闘いは続きますが、今年は明るいニュースの多い年となることを願っています。

### 団塊の世代とみさかえの園

戦後生まれの団塊の世代が後期高齢者（75歳以上）となる二〇二五年問題。そして日本のすべての都道府県で65歳以上の高齢者の割合が30%を超える二〇四五年問題。これらの問題がマスコミでも盛んに取りあげ

られ、「団塊の世代」という言葉が、かつては黒いダイヤと呼ばれた石炭が無用の長物となったと同じように、何か好ましくないものの象徴のような印象を与えます。

一九六一年（昭和三十六年）に始まったみさかえの園の発展の歴史は、団塊の世代のいきいきとした活躍の歴史でもありました。

二〇〇〇年以降、福祉の分野では大きな改革が行われ、みさかえの園の施設や事業所も時代の変化に対応すべく、創業の地、遠竹地区から一部分散して展開していくことになりました。

そんな中にあっても、小長井の遠

竹地区を中心として大村市の「あゆみの家」、小長井・牧の「むつみの家」、そして諫早市高来町の「サテライトセンター」など、これらすべてを総合してみさかえの園です。みさかえの園がこれからも人々の癒しと安らぎの場であることを願っています。

### 未来志向の社会福祉法人であれ

「神さまのみさかえのために」と創立者ミエチスラオ・ミロハナ神父が名付けた「みさかえの園」。

そこにあるのは、太陽のように昇ったり、沈んだりすることがあっても、どんな小さな命をも大切に、人としての生きがいを見出してほしい、との思いです。

「すべてのいのちを守るため」はフランシスコ教皇が一昨年、日本に來られた時のテーマです。この言葉を私たちの日々の生活の重要な指針として今後の法人の在り方を考えて行きたいと思っています。

今年、聖家族会は法人設立60周年を迎えます。

物事を始めることと、それを維持発展させることはどちらが難しいことだろうか、というのは古くからある議論です。

団塊の世代が汗水流してみさかえ

の園を築きあげたことに深く感謝いたします。しかし、創業の時代は過ぎ去っています。

規模が拡大し、多様な事業を抱える今、創業の理念をおろそかにせず、持続的に維持発展させることができ未来志向の社会福祉法人になるよう、心を砕く必要があります。

他方、新しいことばかり追い求めてはいけないと思います。地道に大地にしっかりと足を付け、地域社会に根ざした社会福祉法人でありたいと願っています。

### 今年の予定

二〇二一年は当初、新築予定であった第二めぐみの家の増築・改修工事、そして職員宿舎が老朽化し耐震の心配があるため、新築したいと計画しています。

職員の皆さまにとって働きやすい環境づくりは、利用者さまにとっても過ごしやすい施設になることだと思います。

みさかえの園を愛し、支えてくださっている方々に感謝を込め、皆さまの期待に沿える社会福祉法人「聖家族会」でありますように。聖母マリアさまの心を心として職員一人ひとりで励んで参りたいと思います。

# 地域と繋がる『あんこのあん』を目指して

## みさかえの園サテライトセンター デイスペースあん

管理者 原 真由美

このたび令和二年十月から、在宅生活サポートのひとつである「デイスペースあん」の管理者に就任いたしました。これまでの、利用者様一人ひとりを大切にし、安心して過ごせる場所『安心・安全・安堵のあん』を引き継ぎ、その心を大切にしながら利用者様一人ひとりの思いを尊重し、豊かな暮らしをお手伝いできるよう、また職員一人ひとりが笑顔で取り組める職場を目指し、日々研鑽に努めております。

二〇二〇年は世界中が新型コロナウイルス感染症の影響で「当たり前の日常」が難しい一年でした。デイスペースあんでも地域の状況に合わせて利用制限を実施したり、「今だからできること」を考え、工夫しながら、安心して利用できるよう体制を整えました。また、不安なご家族様には丁寧にご相談に応じ、自粛され休みの利用者様には電話で近況確認に努めました。

デイスペースあんの特徴として、同じ敷地内にある「グループホーム

りん」の利用者様の利用も多く、ホームと情報共有しながら協働する事が必要不可欠となっています。この一年のコロナ禍で、楽しみの一つである帰省や面会、外出等ホームの利用者様の活動も大幅に制限されました。その中で、同じサテライトセンターの職員として、長期休み時のホームでの過ごし方を全員で考え、3密を避け、予防対策を施しながら様々な企画を実施し気分転換を図っています。

現在ではオンライン面会等、現状に合わせた支援を取り入れ、どんな時も「つながる」ことを大切に、安心を提供できる支援を職員一丸で努めています。今後も現状に合った過ごし方を検討し、利用者様の笑顔を絶やさないようサテライトセンター全体で取り組んでいきたいと考えています。

利用者様の安全確保のため、本体施設であるむつみの家と連動し、協力を得ながら緊急時対応やBCP（事業継続）計画などを作成してい

く中で、利用者様の変化にも気付かれました。持病の重症化や高齢化など、見えてきた課題もあり、一人ひとりが安心して豊かに地域で過ごせるよう、今後の支援のあり方や方向性を中長期的に、サテライトセンター全体で検討を進めていきたいと考えています。

今はまだ新型コロナウイルスの影響で落ち着かない情勢が続いていますが、「デイスペースあん」はサテライトセンター全体と協力し、地域とのつながりとして『あんこのあん』のように、地域の真ん中でギュッと詰まった味のあるサービスの提供を目指し、職員一丸となり努力して参りたいと思います。



オンライン面会交流

## 新体制と新たな取り組み

デイスペースあん  
サービス管理責任者 荒木 良介

昨年十月から新体制となったデイスペースあん。「安心・安全・安堵のあん、和・顔・愛・語に努めましょう!」と職員の元氣な掛け声からあんの一日がスタートです。日々職員一同「全集中」し、利用者様の支援にあたっています。

このようなあんの良さを引き継ぎ、サービス管理責任者に新たに就任した荒木です。

今回は、新たに取り組みを始めたことを3つご紹介いたします。

1つ目は活動メニューについてです。あんではオリジナルだるまといった創作活動に力を入れてきましたが、利用者様の作業の負担も大きくなり作品の販売を中止させていただくこととなりました。

これに代えて、利用者様の特技、好きなことを取り入れ意欲的に楽しみながらできる活動に変更しています。

利用者様の作品を活用してポチ袋や絵カード、しあわせを呼ぶ鶴、ストラップなどに变身!

みなさま好きな事をしてしていると表情は生き生きと、とても楽しそうです。その作品は、むつみの家の売店

やサテライトセンターで販売しています。



利用者様の心のこもった手作りの作品

むつみの家の売店業務ですが、十一月からは利用者様2人で挑戦することになりました。はじめは緊張した様子でしたが今では笑顔で「ただいま」とあんへ帰って来るのを見て私もホッとしています。2人での挑戦が自信につながり表情も生き生きと他の活動も積極的な様子が見られています。

2つ目は令和二年十二月からディスプレイあんで土曜日限定「あんカフェ・売店」を行うようになったことです。

コーヒー、お菓子、カップ麺など販売し、11時から14時までオープンしています。



あんカフェ・売店

カフェでは月1回不定期でピアノライブを行い、ゆっくり和やかな雰囲気でご過ごせるような場所を提供しています。

新型コロナウイルスが落ち着いた日にはご家族や地域の方にも開放していきたいと思っています。

3つ目はディスプレイあんのホールの環境作りについてです。

あんの特徴である広いホールを活かしみなさまが安心、安全で過ごしていただけるよう工夫を行ないました。

コロナウイルス感染拡大により、密を避け個々で活動できるようテーブルの補充や「シールドついたて」を手作りし安全対策を行ないながら集団での活動が楽しめるように工夫しました。

その他にもリフトの活用や構造化といった環境作りにも力を入れ、環境を変えることでいつもと違う視点や新鮮さで職員も生き生きとし、利用者様に負けないような元気な笑顔が見られています。

「元氣・笑顔・パワフル」を motto に職員、利用者様と笑顔溢れるあんであるよう今後も取り組んでいきたいと思っています。



新型コロナウイルス対策を取り入れた環境作り

### みさかえの園サテライトセンター 新企画委員発足！

ディスプレイあん 徳久 加奈美

十月から、新メンバーで発足した企画委員の紹介をします。

サテライトセンターでは、マルシェや感謝祭など、これまでたくさんイベント企画を行ってきました。二〇二〇年は目に見えないコロナウイルスとの戦いの一年となり、計画していたイベントは全て見送りとなってしまいました。

「新企画委員」では、コロナ禍で思うような活動はできないけど、安心、安全に楽しい企画ができないか話し合いを行いました。そこで今回、「なかつじ訪問販売」の開催を計画しました。

お買い物中は、それぞれの方が、好みの物や、色を細かく見てまわり、久しぶりにお買い物を楽しみました。新企画委員では初めての試みの訪問販売開催に、不安と緊張がありましたが、コロナ禍の中、なかつじさんの細かいところづかいで無事に開催することができ、利用者様の満足した表情や、笑顔にほっとしました。

新型コロナウイルスが落ち着いた日には、これからも「地域の中で」、「地域と共に」、「地域の方に支えられながら」、サテライトセンターからも発信できる事がないか、日々、模索している中、今回の新企画は、手探り状態でのスタートでした。今後、地域の方と触れあう場所となるような楽しい企画をメンバーと共に計画していきたいと思っています。

## 分かち合うで思いいふ

## 第二めぐみの家

施設長 齋木 初江

利用者のY様が体調不良でしばらく入院していたが、状態が落ち着いたらとのことで退院されてきたある日のこと。Y様の退院を知ったM様は「○○ちゃん、帰ってきたと。よかったね。」とおっしゃった。M様自身も大きな疾患を持っているにもかかわらず、他人を思いやる心を持っていることにちよつぱり感動した。

コロナ禍のため、たくさんの人々が苦しんでいるが、特に感染者に対する誹謗中傷が問題になっているのは心苦しい。しかしM様の言葉からして知的に障害を持っておられる方々は、「なんで感染した人たちの悪口を言うの？」って思っているのではないか。人々の喜びや苦しみをともに分かち合うことの大切さを、ちよつとした利用者様の言葉から教えられている。

イエス・キリスト様の誕生  
施設玄関ロビーの飾り

いろいろなことが中止になって「新型コロナウイルス感染症」のため、と利用者様に説明しても理解は難しいかもしれない。「変な病気が流行っているから、ごめんね。もうちよつと辛抱してくれる？」と何度言ったことか。今年度は夏も冬も外泊どころか面会も遠慮していただいている。そろそろ帰省のことを口に出して言う利用者様が出てくるのではないかと思っていたが、それらしきことを話す利用者様はほとんどいなかった。利用者様たちも何かを感じ取っているのだろう。この人たちのパワーはすごいと本当に思う。

教皇フランシスコは今年十二月八日までを「聖ヨセフの特別年」と制定した。みさかえの園は聖ヨセフ様にたくさん助けられている。聖ヨセフ様が大好きな利用者様とともに、コロナにおびえない日が一日も早く来るように祈っていききたい。



ただいま外壁工事中

## お知らせ

第二めぐみの家は写真にあるように現在、外壁塗装工事、屋上防水工事、室内では廊下の床張替工事が行われています。その後も天井張り替え工事、高圧受電設備の入れ替え

等々、令和三年は工事一色になりそうです。夏頃には、利用者様が日中活動場所に移動する負担を軽減するためのリフォーム工事を展開します。今は朝から午前の活動場所に移動し、終われば各ユニットに戻る、昼食を済ませ余暇を過ごした後、午後の活動時間になれば、また活動場所に移動するといった状態で、たいへん負担になっています。

また、車椅子を利用する利用者が増えたことで移動に時間がかかるため、これらを解消するために一度移動すれば一日そこで活動できる計画をたてました。もちろん浴室も含まれており、将来のために機械浴を設置する場所も確保しています。また、現在の多目的ホール（遊戯室）を食堂に変身させます。

コロナ禍の中、一年かけて建築設計業者とテレビ会議や電話、メールなどを使いながら計画を進めてまいりました。なお、現在の建物は今後也可以使用しますが、利用者様の生活が豊かになるよう工夫していきたいと思っています。

## 新型コロナウイルスと人間社会

みさかえの園総合発達医療福祉センター むつみの家

施設長 福田雅文

世界中が未知の新型コロナウイルス感染症で大混乱している。これまで、自然界の王者のように振舞い、地球環境を破壊してきた人間社会に、アルコール消毒で一瞬で死んでしまう弱いウイルスが襲いかかっている。

これまでのウイルスとは異なり人間の特徴を熟知しているようだ。唾液腺、上気道、肺にこっそり忍び込み、楽しい会話、楽しい食事、楽しい宴会など楽しくなつて騒げば騒ぐほど、感染がひろがりウイルスを爆発的に伝染させることができる。見事なほど人間が大好きな生活習慣を利用して、から厄介だ。さらにこれまでの麻疹やインフルエンザなどに比べて、無症状で増殖して気がつかないうちに感染を広げることができるといふ得意技があり、ある意味、知的レベルが非常に高い巧妙なウイルスのようだ。一年も経たないうちに沈黙化の傾向が見られたらすぐに変異種となり、さらに感染力をあげようとしている。人の移動を止め、密を避け、経済活動を止めないと太刀打ちできない状況である。

今はただ私たちの心に差別や偏見の心が宿らないで、平靜心が保てるように、神さまに祈るだけです。どうか神のご御加護がありますように。

## JICA海外協力隊へ参加して学んだこと 前編

リハビリテーション科 理学療法士

就直也

皆さん、JICAをい存じですか？一度はポスターやニュース等で聞いたことがあるのではないのでしょうか。ベトナムでのボランティア活動報告の前に、今回は「JICA海外協力隊」そして「ベトナム」について少し紹介したいと思います。

JICA（独立行政法人国際協力機構）は、日本の政府開発援助（ODA）を一元的に行う実施機関として開発途上国へ国際協力を行っています。その内ボランティア事業として一九六五年から五十年以上に渡り九十か国以上にJICA協力隊（青年海外協力隊／シニア海外協力隊）を派遣してきました。私は、二〇一八年十月から二〇二〇年三月までJICA海外協力隊（※二〇一八年秋からJICAボランティアから呼称変更）に参加し、理学療法士の職種としてベトナム南部の整形リハビリテーション病院へ派遣され、派遣先スタッフの小児リハビリテーション技術・知識の向上を目的に活動しました。

隊員は試験に合格すると、まず国内の訓練所に七十日間入所し、派遣前訓練として語学訓練（派遣先の言語）や国際協力について学びます。その訓練が終わり初めて各国へ派遣

され、それぞれの職種で二年間のボランティア活動を実施します。派遣前訓練は大変ではあったものの同じ志を持った多くの仲間と出会い、同じ時間を共有できたことは私の一生の財産になりました。

日本でのベトナムに対する印象は世代によって様々であると思いますが、私がベトナム生活で感じたことは「開発途上国で生活は不便なはずなのに、みんな幸せそうだな」という事でした。それは全くもって私の派遣前の開発途上国のイメージと異なるものでした。はっきりとは分かりませんが、実際に現地の人々と共に生活し感じたことは「人と人との繋がり」が日本よりも濃いという事でした。多くのベトナム人が家族や同僚、友人と過ごして一人になることがほとんどありません。そのため、人の心の温かさをお互いがしっかりと感じ、それが心の豊かさへと繋がっているのではないかと思います。それが全てではないですが、機械化やIT化が進む現代において、「心の温かさ・豊かさ」というものは、生活する上でも医療福祉においても、忘れてはいけない事なのだと、開発途上国であるベトナムから改めて学ぶことができました。



同僚との会食

派遣先病院にて

## のぞみの家の近況

みさかえの園のぞみの家

施設長 田縁 久廣

私が施設長に就任して10か月が経ちました。この期間は、コロナ対応に追われる日々だったように思います。今では、朝礼でコロナ対策について職員の皆さんに重ね重ねお願いすることから始まるのが定例となっています。

一昨年にのぞみの家ではインフルエンザが大流行したことから、まずは感染管理を徹底的にやる必要があると感じ対策に取り組みました。

手始めにマスクの配布を行い、手指消毒液を職員へ支給しました。緊急事態宣言が出た四月時点では、消毒液やプラスチック手袋などの衛生用品の入手が非常に困難な時だったので、その際はあゆみの家に多大なる御協力をいただきました。

更に、のぞみの家は建物の構造上、温湿度の管理が難しいようので温湿度計を至急購入し、各所に設置して温湿度を管理することで感染防止に取り組んでいます。しかし、暖房を入れるとほとんどの箇所湿度が30%以下となり早急な対策が必要だと感じています。

のぞみの家の利用者様も入所時の身体状況とは大きく変わっており、昔できた作業ができなくなっている方が年々増えている現状があります。

また、コロナ対策に追われる日々で季節を彩る施設周りの果樹にも気を配る余裕が時間的に無く、放置されている状態を心苦しく思っています。

現在、のぞみの家では、利用者様が活動される中で不要となっている物品や長年放置された建物の整理に着手しています。

第一段階として、のぞみの家の一段下の駐車場辺りにあるプレハブ倉庫の整理に取りかかり、以前のぞみの家の利用者様が作業で使われていた品で年数が経ち使用不可となった物品等の処分を進めています。プレハブ倉庫を整理する中で、再利用が可能な物品等においては、法人内の他施設へも譲り、支援に活用してもらっています。昨年末には、三つあるプレハブ倉庫の整理も無事終了し、気持ち良く新年を迎えることができました。今後とものぞみの家は、新しい視点を取り入れ、様々な事に対して真摯に取り組みたいと思っておりますので皆様の御協力を宜しくお願いいたします。



## 生き生きとした笑顔

みさかえの園のぞみの家

支援課長 西山 美香

日本中がコロナ禍の中、「3密」を避け、行動制限を受けながら日常生活を送っている状況は今も変わっていません。利用者様もそのような現状に理解を示し、その都度応じてくださっています。

施設行事の変更が余儀なくされる中、のぞみの家では、利用者様が日頃から楽しみにされている外出の機会をどのような形で提供したら良いのか職員同士で何度も話し合い検討を重ねました。

そこで、まず初めに企画した外出行事が月に1〜2回程度の『ドライブ』です。車内では利用者様のお気に入りの曲を聴きながら、毎回コースを変え、車窓から見える季節の花や景色を眺め、小長井の人気スポットであるフルーツバス停等を巡りました。時折、感染防止を心がけたうえで途中下車して写真撮影を行い、少しでもドライブ気分が楽しめるような工夫もしました。利用者様にとっても心のリフレッシュになったようで大変喜んでくださいました。

次に企画した行事は、利用者様が毎年一番楽しみにされている『買い物』です。今年は、今までと形を変え、店へ出向くのではなく施設内に業者を呼び訪問販売による買い物企画しました。密を避けるため一人が買い物をする時

間は区切らせてもらいましたが、全利用者様が参加することができました。利用者様は商品を手に取り、色や柄・デザインなどを見て、触って、試着して確かめながら直感的に選ぶ方もいれば、迷いながら慎重に選ぶ方もおられ、各々で買い物を楽しみながら商品を購入していらつしました。利用者様の好きな物を選ぶ時の表情は、皆生き生きとしており、お気に入りの商品を決めた時には誇らしげな表情をされていました。職員は、そのような表情を見る度、利用者様の新たな一面を引き出すことができたと感じています。

今回、初めての試みでしたが、行事を通して多くの利用者様から「ありがとう」「またお願いしたい」と嬉しい声を聞くことができました。コロナ禍で様々な制限はありますが、利用者様の日々の暮らしを守りつつ、今後も喜びとなるようなサービスを提供できるよう職員一同取り組んでいきたいと思っております。



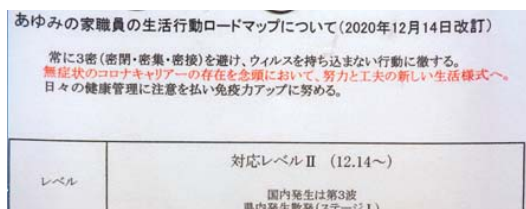
# あゆみの家での 新型コロナウイルス対策

みさかえの園あゆみの家

施設長 平松 公三郎

二〇二〇年に引き続き二〇二一年も新型コロナウイルス感染症への対応で明けることになりました。あゆみの家では、「持ちこまない」「広げない」「支援を滞らせない」「準備を怠らない」の4つの「ない」を目標に、新型コロナウイルス感染症対策にあたっています。私どもの施設では、マスクをかけることのできない利用者の方々と密に接しながらの医療と生活を提供しています。ひとたび発生者がでると利用者も職員も多数の感染者並びに濃厚接触者をだすことになります。新型コロナウイルスは、無症状者を介して忍び込んでくる怖いウイルスなので、職員としては「持ち込まない」「行動とともに、常に「広げない」」行動をとっておく必要があります。手指消毒と環境消毒の接触感染対策と、咳エチケットとマスク着用の飛沫感染対策とともにおしゃべりに注意するマイク口飛沫感染対策が大事なことになってきました。職員一人ひとりによる毎日の感染を意識した行動が大事となる年となりました。

しばらくは、目の前の行動に追われることになりませんが、一歩下がって自分の周りを見つめなおす視点も忘れないようにしたいものです。入所者の方々が今どう思っているのか、不安の解消はどうすればいいのか、人と人とのコミュニケーションのあり方は、などなど。新しい生活様式においては、感染に対しての意識をもった行動をとること、工夫と創意をもって生活と人生を豊かにすることが必要となります。そして、障害の方々を支援する私たちには、常に相手を思いやる温かい心をもって臨むことも忘れてはいけません。



あゆみの家独自の「生活行動ロードマップ」を作成し、決して持ち込まないように普段の生活にも注意をはらっています。

病棟入口



自動手指消毒器

リハビリ室前



消毒液はあらゆるところに設置されています。

玄関



来園者の方に体温測定とアンケート、手指消毒をお願いしています。

受付



事務室



アクリルパーティション、透明ビニールなどで仕切りを設置しています。



フェイスシールド

会議室



ゾーニングのために食事場所として使用しています。

職員出入口



職員は出勤時、退勤時に検温し、毎日記録しています。

## 感染者発生対応 コミュニケーション

あゆみの家の利用者に感染者がたことを想定し対応コミュニケーションを十二月初旬に行いました。感染者役、濃厚接触者役を職員が行い、感染者の隔離手順と消毒、濃厚接触者の特定と検査、ゾーニングなどについて確認しました。



濃厚接触者は一部屋に集まってもらい検査します。



感染された方は隔離された部屋に移動していただきます。

消毒作業



感染者が触れたと思われるところは、防護服を着て消毒します。

防護服



感染ゾーンは完全に隔離されます。

コミュニケーション終了後に確認された問題点について話し合い万が一の場合に備えています。これらの準備が全て無駄に終わることを願っています。

# ワークスペースあん

新年にあたり今年もよろしくお願いいたします。

去年は、新型コロナウイルス感染症に伴う対応や対策に、あんでの生活様式も変化しました。経験したことのない状況に利用者さんも受け入れが難しい方やストレスを抱えたりと大変でした。ソーシャルディスタンスの確保に努めながらもマスク着用には時間を要しました。説明と必要性を繰り返しながらの日々でお互いに貴重な経験となりました。幸いにも農作業中（屋外）は、マスクを外し私語をつつしみながら生産量（収益）への影響も少なくすみました。

作業意欲の原動力となる余暇活動も内容の変更を余儀なくされましたが利用者さんの受け入れはスムーズに行き新型コロナウイルスに関する意識が定着してきた瞬間でもありました。

ワークスペースあんのモットーである「安心・安全・安堵のあん」に心から寄り添える日常が、早く訪れますように、また、世界中で新型コロナウイルス感染症が収束しますように神さまにお祈りいたします。

## 〈トピックス①〉 7/7 大雨洪水警報発令 9/2 台風9号接近により事業所休み対応



・収穫前の畑の斜面が崩れ落ちました。



・大切なハウスのビニールの一部がはがれました。

## 〈トピックス②〉 8/1 旧虹の原特別支援学校(みさかえ分校)跡地へ移転しました



・4か月が過ぎ広々と快適な利用をされています。

## 〈トピックス③〉 9/23～9/28 アイソレーションガウン(ディスポーザル)たたみ作業



・LサイズとLLサイズ合わせて800枚を納品しました。  
・髪の毛や糸くずのチェックが大変でした。

## 〈トピックス④〉 ワークスペースあん自主製品の乾物類



R2年度  
ベスト3

①ニンニク(今年は特に人気でした)

②ハーブティー(安定の人気商品)

③唐辛子(色つやがキレイです)

## 〈トピックス⑤〉 5/25 日帰り旅行 12/21 クリスマス会



・コロナ対策上、外食を避け事業所内で目で見えて楽しみ食べておいしく豪華な弁当をいただきました。

・安心してバザー出店できる日を心待ちにしています。(サービス管理責任者 門脇直子)